令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【内谷中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)小学校からの学びの連続性を活かし、教科横断的な見方・考え方ができる資質・能力 (2)自ら設定した目標の達成に向け、学習を調整することができる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)デジタル教材を用いて、中学校での既習単元や小学校での学習内容に取り組ませることで、学習した内容を振り返る機会を設ける。【学期に1回以上】 (2)7時間目（サキドリ）の個別学習の時間において、目標達成のための計画表を作成する。また、各教科の授業において、課題解決に向け、深い学びにつながる方法を提示する。【学期に2回以上】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語・数学・英語すべての教科において、平均正答率が全国・県平均を上回る結果となった。国語において顕著であったのは、正答率が7割を超える生徒数は全国・県平均よりも高い水準であったが、正答率が5割以下の生徒数は県平均と同水準になった点である。数学は特に正答率5割以下の生徒の数が全国・平均に対して非常に多かった。英語においては、正答率7割以上の生徒数が全国・県平均を大きく上回り、正答率3割以下の生徒数が全国・県平均を大きく下回っている点である。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	国語・数学においては、度数分布のグラフを全国・県平均と比較すると、正答数8～9割の生徒数と4～5割の生徒数が多い。対して、正答数6～7割の生徒数は少ない。また、問題別調査結果を参照すると、選択式問題は全国・県平均に比べ非常に高い水準であるのに対して、短答式・記述式の問題は全国・県平均を下回る問題がある。このことから、基礎的な知識を身に付けることはできているが、それを表現する部分において苦手な生徒がいるのではないかと予測できる。ただし、英語三技能においては短答式・記述式の問題がすべて全国・県平均を上回っていることから、表現する能力そのものは身に付いていると考えられる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※） B	生徒一人ひとりが明確な目的意識を持って学習に取り組む時間を確保するため、新たに「7時間目」の時間を設定した。この導入に伴い、生徒自らが机に向かい、意図を持って課題に取り組む姿勢が多く見られるようになるなど、全体として学習に向かう意識の着実な向上が確認できた。さらに、日々の学習後に振り返りの時間を設けたことで、生徒自身が取組の良かった点や改善すべき点を自覚しやすくなり、自らの行動を客観的に捉え直すという成果も表れている。
学力向上策の見直し	課題解決に向けた最適な学習アプローチを選択しきれていない点や、「周囲が行っているから自分もやる」といった受動的な態度（惰性での学習）にとどまっている点が依然として大きな課題である。現状の振り返りは、学習内容の確認にとどまり、次回の具体的な課題設定や学び方そのものの振り返りにまで昇華できていない側面が見られる。また、単なる知識の暗記や定着で満足し、それ以上の活用に至らないケースも存在する。今後は、生徒が自らの課題を正確に自覚した上で、課題解決に向けた学習手段や学習形態を自らの意志で選択できるよう学びを調整する機会を積極的に提供していく。あわせて、単なる知識理解に留めず、課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現といった探究のプロセス（汎用的な課題解決サイクル）を活用した自律的な学習を展開できるよう、指導体制や手立ての再構築を図る。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）